曲亭馬琴著

傾城水滸傳第七編

歌川國安画

上帙巻之上

13
3087
18

へ13 特
3087
18

傾城水滸傳第七編序

毎篇八号合本二上
帙毎帙上下各三冊

稗史の觀るべきのみ勸懲を宗とまれば彼水滸傳の如きは然らざ但その巧みなること何の稗史かよくその右に出るのこれあらん惜しむべき作者の意匠まさに勸懲に違ふをもて子孫喑啞の譏あり今その一二を論ぐ宋江花栄が清風山に在りし時詐て秦明を降せしこと話說の三國志演義に孔明が姜維を降せし計略と相類せり況ん宋江が秦明を固く山寨に留め為に其容府尹をして其妻子を殺さしめ遂に花栄が妹をもて明が妻をとらふ毒悪不仁これより甚しきはなし又宋江が父宋大公宋江を見まく欲するのあまり宋清をして偽て大公死せりと告しむるとは說あり之を非如父の命ありとも宋清も亦その子たり兄を欺くふるあの父の死をもて不孝不悌亦甚しきよりも甚しきは金聖歎が評論に宋江をもて奸賊とせるのみならず其人を是認の為のみにあらず聖歎も亦誤まり何ぞ宋江が奸なるを宜ふ奸なれども宋朝の忠臣たりんと庶幾ふ志終始渝らざるもの九人玄女の冥助あるとを素より黄巢朱全忠の類にあらざ拙平す措の盡しかたをもて又別に書つけたるものの傾城水滸傳の右の論に如ぞ善悪を差別する趣向ふかとは則ち是を緩易なく所謂花を正くし使是よく戲謔をもて虐せざるの意を圖ると同のみ光陰に小道とのたまへるべきのみあらず畢竟これを益とせるの論に我の巧拙批判の當否彼も一時此も亦一時なる哉

文政十二年己丑春正月吉日　新版　曲亭馬琴識

迅雷電秦名
とぐろく
天見津山黄葉

百歩
露を空
的場柳
三日月
秋来ぬと風の
たよりにつけて
先よ
弓執
花的

新川稲荷大明神
年まつり
御供の
豆腐乃
めぐり長元
望月
桂之助
伏遣
腐雑
周山元

久くらべ
かつら男の
うらぶれ
新さん
乾
恋
まち
外る
優素顔
雌雄
珠玉簾
し婦

あらそふ
柳のいとよ
ゆらぐら
はりぐもりの
はの光ごろ
とき
達手摸様
薄衣

きさ
あつ孔
たくとの
鶴姫
ゆよ
あつく
泳生の
せ
はく
のちひろあ
悟死
桐火桶
石竹
苗頃水
筒鳥

尾張
藩邸
大吉
利市

書物錦繪暦問屋仙寶堂鶴屋專右衛門版

傾城水滸傳 初編〜五編迄先達て賣出す 曲亭馬琴作 六編七編編次第賣出す 歌川國安画

繪本漢楚軍談 初編〜五編迄 通俗漢楚軍談を本に極方にひろう 馬琴譯 共三十冊出來 歌川國貞画

當世侠者水滸傳 歌川國貞画 嵐璃寛の立者九代目澤村藤十郎の水滸伝にちなみ作りたる画本なり

稗史水滸傳 初編〜六編迄 共二十二冊賣出す 歌川國芳画

水滸傳豪傑雙六 歌川國芳画 奉書二枚つぎ彩色すり画面に嵌く長めて おもしろきなり双六法にすり

水滸傳劇場雛形 初編鶴屋南北作 四冊 歌川國貞画

忠臣水滸傳 繪入十冊 山東京傳作 讀本 忠臣くらの義士を仮豪傑水滸伝にたとへ 稗史にて名文乃絵本なり